

しえあハート村通信

第 49 号



しえあハート村 いよいよ最終年度！

コロナ禍明けの去年は、改めてできるだけ多くの人と関われるようにと、皆さまにたくさんのお力をお願ひしながら行事の内外で関わりを持ち続けることができました。いよいよ最終年度となる今年は、引き続き皆さんに協力していただきながら、地域食堂事業やお祭り開催準備を進めていくともに、「伝える」ということをテーマに、私たちからも具体的な防災の知識・生活する力などを伝えていきます。また、関わってくださった皆さまには感謝の気持ちを伝える一年にしたいと考えています。

しえあハート村が終わることに對して心づもりだけはしておいた方がよいと頭ではわかっていながらも、最終年度だからといって特別急ぎながら過ごしているわけではありません。これまで通り、特にこれといった用事がなくとも訪れてくれる人がいて、目の前で繰り広げられる日常を私たちも楽しんでいきます。またどうぞお立ち寄りください（しえあハート村があるうちに！）。

もりおか復興推進しえあハート村 は 東日本大震災被災地から進学のために盛岡市に転入してくる学生のためのシェアハウスと復興支援団体が拠点を置く、盛岡市が設置した複合拠点施設です。

2024

5月
25
(土)

はと村さんの防災学習①

非常用トイレ

の使い方を知ろう！

スタッフが能登半島地震の被災地に赴いた際、断水でトイレに困った経験から、平時から最も備えておくべきものの一つが非常用トイレだと痛感しました。それにも関わらず平時には使うことがなく、イメージしにくい非常用トイレの使い方を参加者と実践しながら学びました。

最近地震が多いけれど…
災害への備え

何から始めたらよい？

最も備えるべきものの一つは

非常用トイレ?!

reason 1

そもそも排泄は我慢できない

reason 2

仮設トイレはすぐに設置されない

reason 3

トイレがないと飲食を我慢
⇒体調不良の原因に

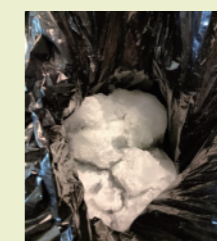
そのほかにも、衛生的なトイレがないことでノロウイルスなどの集団感染、水を控えることによるエコノミークラス症候群のリスク上昇などが指摘されています。



非常用トイレの中身。用を足すためのゴミ袋と排泄物の凝固・消臭剤がセットになっている。



簡易便器にかけたゴミ袋の中に便を模した水や粘土を入れ、凝固・消臭剤をふりかけると…



ゼリー状に固まる。袋を縛って適切な方法で処分する。

check! 詳しい使い方は
こちらから映像もご覧ください



スマホのカメラをかざしてみよう!

使い方を
知ってれば
安心だね…



しえあハート村
非公認キャラクター
はと村さん

[参加者の声]

- ・やってみないとわからないものだ
- ・想像以上にすぐに固まることに驚いた
- ・どれくらいの尿を固めることができる？
- ・大便だけの場合はどうする？

非常用トイレは 100 均でも手に入れることができます。ご家庭でもどんなものか自分の目で見て確かめておくことで、その備えの必要性がわかったり、浮かんだ疑問から理解を深めたりできるかもしれません。

しえあハート村通信 第 49 号

2024 年 7 月 19 日発行

発行元：しえあハート村情報部

編集：岡垣亮我

協力：しえあハート村センターハウス
一般社団法人 SAVE IWATE
盛岡市

しえあハート村センターハウス
(管理棟)

岩手県盛岡市本宮 5-10-16
電話 019-601-5043
メールアドレス
share.mori@gmail.com
ホームページ
http://www.s-h-v.org

しえあハート村復興支援学生寮は
盛岡市からの委託を受け、一般社団法人
SAVE IWATE が運営しています。



学生シェアハウス入居に関する
お問い合わせは
盛岡市危機管理防災課
電話：019-613-8386 (直通)
FAX: 019-622-6211 (代表)

成り立ちは？

しえあハート村には25の住宅があります。この住宅群はもともとは都市再生機構（UR：旧地域振興整備公団）が本宮を含む盛南地区の区画整理事業の一環で、仮住まい住宅として利用していたものです。震災後その一部を盛岡市が借受けし、2012年に学生寮事業を開始、2013年に全25棟の寄附がなされ、シェアオフィス事業等を追加し「しえあハート村」としてスタートしました。



2011年4月 URから8棟借受け
2012年4月 学生寮開始
2013年4月 全25棟寄附
2013年5月 「しえあハート村」として開所

学生シェアハウスのある場所

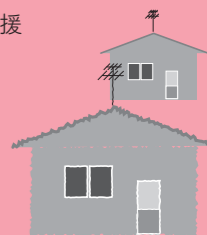
その中心となるのが復興支援学生寮（シェアハウス）です。これらの住宅のうち8つをシェアハウス（共同住宅）として使用し、盛岡市広域にある大学や専門学校に通うため被災地から盛岡市に転入してくる学生たちが生活を送りました。これまでに65人の学生を受け入れてきました。



復興支援シェアオフィスのある場所

しえあハート村内には復興支援事業を行う団体が共同入居する「復興支援シェアオフィス」の棟があります。5棟に9団体が入居（7月1日現在）し、下記のような活動をしています。

- 災害学習ツアー●震災風化防止のための語り部・鎮魂花火行事
- 主に滝沢市にきている被災者向け交流イベント・生活支援
- 視覚障がい者のある人の自立・就労・社会参加の支援
- 復興支援に関わるアーティストの作品管理
- ニーズに合わせた学習支援
- 岩手に関わる主体的・意欲的な若者を増やす活動
- 被災地域活性のための映画上映



北側広場に壁面アートのある場所

2016年は国体で全国から盛岡を訪れた人に対し支援への感謝を示すために「手を振る人」の大きな壁面アートを描きました。また2017年には「音楽する人」をテーマに描かれた絵を集め、一つの壁でオーケストラを表現しました。



しえあハート村
実はこんな
場所でした！

2012年の学生寮事業開始以降、復興のための複合拠点施設として皆さんに親しんでいただいたしえあハート村ですが、東日本大震災から年数が経ち、実際にはどんな場所だったのか知らない人もいないのではないでしょうか。しえあハート村があったおかげで実はたくさんの活動と交流が生まれました。書ききれないことも多いのですが、改めて紹介していきたいと思います。



草刈りが大変な場所

普段、町内の方や地元企業に協力してもらって草を刈ったり、年に4~5回「村内一斉草集め」を実施したりして村内整備を図っています。「一斉草集め」の後にはアイスや芋の子汁で季節を感じて楽しむこともあります。



地域食堂を開催する場所

114号棟を2018年度から地域食堂の会場に使っています。現在は15人程度が集まり、基本的に全員が調理作業に加わる参加型の食堂として実施しており、いなり寿司、ハンバーグ、恵方巻きなどを共同で作って楽しんでいます。



村内には家庭菜園があり、ここで作った野菜を「地域食堂」で使ったり、被災者・地域の方・ボランティアで手伝ってくれた方々などに分けたりしています。



色々な人々がお茶を飲みにくる場所



「センターハウス」と呼ばれる116号棟はしえあハート村の管理事務所ですが、普段から遊びにきてもらえるようにしており、シェアハウスの寮生をはじめ、老若男女問わず地域の方々、被災者の方々が訪れます。また毎月「フリーカフェタイム」としてオフィスのカフェ開放日を設けています。



「ぐっすり眠れる場所」

行事の内外で盛岡在住の被災者や近所の方が自然としえあハート村を訪れるなかで、入居する学生とも交流が生まれました。開所当初に設定されたコンセプトは「ぐっすり眠れる場所」。慣れない地での暮らしでありながら、様々な人々に見守られることで安心して過ごせる場所づくりを目指して活動してきました。

